

きざし

登録番号：第2933号

育成者：土屋七郎 吉田義雄 羽生田忠敬

登録年月日：平成3年12月16日

D.W.マッケンジー 真田哲朗

登録者：農林水産省果樹試験場

増田哲男 別所英男 小森貞男

(茨城県つくば市藤本2-1)

来歴：「ガラ」と「ふじ」の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹はやや開張性で、樹勢は旺盛である。短果枝の形成、花芽の着生は良好で、腋花芽の着生もやや多く、豊産性である。3年枝以上の中、太枝の表面がやや粗皮状を呈するが、樹皮内に壊死が全く認められないことから、マンガン過剰症などの生理的な障害とは考えられない。葉は、L/B比が2.1程度の披針形で、リンゴではまれな細長さを示す。鋸歯は鋭鋸歯状。葉柄の長さ、太さは中くらいである。

花の満開期は東北北部で5月10～15日ごろで、「スターキング」や「紅玉」より若干早く、「つがる」とほぼ同時期である。主要経済品種の「ふじ」や「つがる」、「スターキング」、「紅玉」とは高い交雑和合性を示すが、「ゴールデン」との正逆交雑では結実皆無となり、ともに受粉樹とはなり得ない。収穫期は温暖地の石川・富山・長野県で8月初め、東北中南部で8月中旬、東北北部で8月下旬、北海道で9月上中旬である。

■果実特性

果実の大きさは平均200g程度でやや小さいが、年や場所によっては平均270gに達することがある。果形は円錐ないし円・円錐形で王冠は認められない。黄緑色の地に濃紅色ないし濃褐紅色に着色し縞が明瞭である。高温期に熟する品種としては着色が極めて優れている。なお、果葉がやや立ち気味で、葉摘み、玉回しなどの作業は最少限にとどめ得る。

果肉の色は白で、褐変の度合いは弱い。肉質は硬さ中くらいで緻密である。蜜はほとんど入らない。果汁が多く芳香がわずかに認められる。糖度は12～14度で、この時期に熟する品種としては比較的高いが、リンゴ酸含量も0.63～0.93%と高い。食味は濃厚で、風味さわやかである。日持ち性は室温で5～10日、冷蔵では約1か月である。なお、熟期が不揃いで、日持ち性も中・晩生品種に比べると短いことから、2～3回にわけて選りもぎすることが肝要である。

■病虫害抵抗性

斑点落葉病に対しては「ふじ」より強いが、黒星病には「つがる」なみの感受性を示す。このため病害防除には十分留意する必要がある。害虫ではアブラムシの被害が若干目立つ程度で、他の虫害については、これまでのところ特に大きな被害は認められていない。

■地域適応性

わが国には「つがる」の前に収穫できる極早生の実用品種が見当たらないため、「つがる」の早期出荷が行われ、不評である。本品種は極早生品種として長野・山梨・富山・石川県など、リンゴ早出し地域に最も適する品種である。東北における収穫期は温暖地の「つがる」や「さんさ」の最盛期と重なるため、中央市場への出荷については多くを期待できないが、地場消費用としての普及が期待される。現在、普及面積は少ないが、盛果期にさわやかな風味を提供する生食用品種として、さらに、サラダ用としても、果肉褐変が少なく、適度な酸味を有するなど、優れた特性を有することから、今後、消費者ニーズを十分喚起し得るものと考えられる。

(土屋七郎)